

令和4年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

白岳中学校区 校番 3 学校名 呉市立白岳中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>基礎的・基本的な知識・技能を習得させ思考力・判断力・表現力の育成を図る。</p>	<p>生徒が主体的に学ぶ授業づくりを行う。</p> <p>賞</p> <p>学習観をレベルアップさせ、自律した学習者を育てる。(学習環境づくり)</p> <p>自分の夢や目標を他者に伝える表現力を育成する。</p>	<p>「他者とのかわり合いを通して理解を深めることができた」と答える生徒の割合が94%であり、多くの生徒が主体的に学び、理解を深めることができている。また、「タブレットを活用して自分の意見を発表できた」と答える生徒も85%であり、目標値を越えることができている。一方で、どの学年も1割弱の生徒は、学習に対して前向きな姿勢が持ちにくい状況にある。</p> <p>『学び方5』を意識して学習に取り組んでいる生徒の割合は73%で、昨年度より5ポイント増加している。JCノートの提出率は、93%と目標値を上回っている。100%をめざしていく。</p> <p>「将来の夢や目標に向かって努力している」生徒の割合は81%であるが、「自分の夢や目標を語るようにしている」生徒の割合は62%に留まっている。積極的に、表現する場を増やし、生徒が自信をもって語る場の設定が充分でなかったと思われる。</p>	<p>班やペア、グループ学習に対する制限が続いているが、さらなる工夫をしながら、個の考えを班やグループ、クラス全体へ共有させるとともに、より深い理解につながる取組を進めていく。</p> <p>学習観レベルアップ講座を実施できたことが、肯定的評価の増加につながっていると考えられる。引き続き、学習観レベルアップ講座を定着させ、基礎的・基本的な知識・技能を活用する力を身に付けさせる。</p> <p>将来の夢や目標に向かって努力している場面を肯定的に評価し、自己肯定感を醸成するとともに、自分の言葉で夢や目標を語る場を設定していく。加えて、さまざまな教科で横断的な学びに挑戦し、社会の一員になることをより実感させる取組を進める。</p>
**	<p>規範意識を身につけ、認める・ほめる指導により、自尊感情を高める。</p>	<p>賞</p> <p>ルールやマナーなど規範意識を身につける指導の徹底を図る。</p> <p>キャリア教育を充実させ、明確な夢や目標を持つ生徒を育成する。</p>	<p>「ルールやマナーを守って生活している」生徒の割合は、99%であり、目標値を達成することができている。無言清掃チェックの実施などにより、生徒の意識を高めることができたと考えられる。生徒会執行部や学級の委員会の人が主体となり、前向きに取り組むを進めることができた。</p> <p>将来の夢や目標に向かって努力している生徒の割合は、81%であり、目標値を達成することができている。ドリームマップ作成等を通して、自身の夢を改めて認識したり、それに向かってどのように何を頑張ったらいいかを知ることで、具体的な将来像を描き、前向きに取り組むことができた。</p> <p>体育大会に満足している生徒の割合は、92%であり、目標値を上回っている。今年は、活動に制限のある中で、今できることを最大限実施することで、生徒の意欲につなげることができた。</p>	<p>無言清掃チェックや名札チェックなどの規範意識を高める運動を引き続き進めていく。また、部活動とも連携し、ルールやマナーを定着させるような取組を考え、行っていく。</p> <p>各教科での横断的な学習を通して、具体的な目標や将来像を明確にし、さまざまな職業について知識を深め、自身の夢や目標に向かって、自主的に学べるよう声かけを続けていく。</p> <p>2学期の文化活動発表会は、体育大会と同様に、生徒主体かつ安心・安全に実施できるよう、生徒会を中心に取組を進めていく。</p>
*	<p>基本的な生活習慣と体力の向上を図る。</p>	<p>賞</p> <p>「早寝・早起き・朝ご飯」の定着を図る。</p> <p>体力の向上を図る。</p> <p>防災教育の充実を図る。</p>	<p>「バランスの良い朝食を食べる生徒の割合」における肯定的な評価は83%であり、目標値は達成している。しかし、各学年に1割弱の課題の生徒がいる状況である。</p> <p>新体力テストにおける、県平均との比較では、25%の種目が平均値を上回っている。</p> <p>「避難訓練時に必要な行動ができる」と回答した生徒の割合は99%であり、訓練であっても、自分の命を守るために必要な行動をしようとしている。</p>	<p>特に課題のある生徒については、授業や部活、教育相談の場面で声かけを行い、改善の手立てを生徒とともに考えていく。</p> <p>特に課題となっている握力とシャトルランについては、保健体育の授業ではもちろん、部活や日常生活の中でも向上できる方策を考え、実施していく。</p> <p>今後も、防災教育に必要な知識と適切な行動ができるよう、防災教育を積極的に推進していく。</p>
	<p>教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備</p>	<p>児童生徒と向き合う時間の確保</p> <p>長時間勤務の削減</p>	<p>教職員アンケートの「生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合」における肯定的評価は、86%であった。アンケート結果を分析すると、生徒と直接向き合っていないと、否定的な意見となっている傾向が見られた。</p> <p>4月～8月までの5ヶ月間で、29人の常勤教員の時間外勤務時間を入校退校記録を考察すると、時間外勤務時間が45時間を越える教員は、延べ人数で35人いた。従って、5ヶ月トータルで45時間未満の職員は75%であった。</p> <p>年度始めの業務の過多と主任・主事のリーダーに、業務が集中していると考ええる。</p>	<p>教職員の業務が、生徒たちに与えている場面を取り上げ、教職員自らが生徒と向き合っていると実感できるよう情報発信をしていく。</p> <p>年度初めの時期や部活、評価の時期は繁忙期になるため、学期ごとの長いスパンの中で先を見通した計画的な校務運営を心がける。また、職場環境やICT環境を整えることで、業務の効率化を図りたい。</p>